

医師のコラム

今回は、日本感染症学会指導医の小林医師より
みなさんも一度は聞いたことのある『感染症』についてのお話です。

感染症の話

日本感染症学会指導医 小林真澄

インフルエンザ

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって起こる感染症です。

咳やくしゃみなどによってうつる「飛沫感染」と唾液や鼻水などが手についてそこから鼻や口をとおして感染する「接触感染」とがあります。

予防としては、よく言われているように、うがい手洗い、そして予防接種です。

インフルエンザウイルスは毎年流行の株が変わったり、ウイルスが少しずつ変化したりするので、予防接種は毎年受けて下さい。

インフルエンザの場合予防接種を受けたからといって、かからないわけではありませんが、かかる確率はかなり下がります。特に高齢者や病気で治療中の方、また手術を受けたかたのように抵抗力が落ちていると、インフルエンザにかかりやすかったり、また合併症を起こして重症化したりしますから、必ず受けておいてください。

高齢者の場合は、肺炎球菌による二次感染で命にかかわる場合もありますから、肺炎球菌ワクチンも一緒に受けておきましょう。

今まで受けていない方はぜひ主治医や、最寄りの医療機関で相談してください。

インフルエンザにかかったかな?と思ったら、早く医療機関で検査を受けたいと思うでしょうが、発症(主には発熱)してから時間が早いと検査が正確に出ないことがあります。つまり本当はインフルエンザでも検査結果は陰性になってしまうことが多いのです。

できれば発症後12時間くらいしてから受診してください。

インフルエンザの治療薬は飲み薬、吸入薬、点滴とありますが、すべてインフルエンザウイルスが体内で増えられないようにする薬です。抗菌剤(抗生物質)のように直接ウイルスをたたく薬ではありません。

ですから発症してから48時間以内くらいに治療を開始しないと効果がありません。

また一般的な抗菌剤はインフルエンザには効きません。タイミングが難しいかもしれませんが、発熱してインフルエンザかな?と思ったら、翌日朝早めに医療機関を受診して診てもらうのがよいでしょう。

またインフルエンザにかかったら、外出は控えて、どうしても出かける時はマスクをして咳エチケットを守って下さい。また病院へのお見舞いは固くお断りいたします。

入院している患者さんにうつってしまったら、それこそ大変です。ご家族が入院していて、どうしても必要な時は、事前にナースステーションで必ず相談してください。



感染性胃腸炎

ノロウイルスが有名ですが、他にもいくつか原因になるウイルスはあります。ノロウイルスはとても感染力が強く、わずかなウイルスでも感染してしまいます。病院や施設で大流行したニュースを目にしたことがあると思いますが、本当にあつという間に感染が広がるので、私たち病院スタッフはいつも注意するようにしています。この感染性胃腸炎のウイルスは、便や吐物に含まれていたウイルスが手や器物をとおして感染する接触感染です。

トイレのあとはもちろんのこと、常に手洗いを心がけることと、もし嘔吐した場合、始末をするときには、マスク(ノロウイルスの場合は吐物から舞い上がったウイルスで感染することがあります)手袋をつけて、感染しないように注意してください。特に小さいお子さんや排泄介助の必要な方がいる場合は、世話をした方から家族中に感染してしまうことがあります。

またノロウイルスはアルコールが効きませんから、もし衣服についたり、トイレなど汚してしまった場合は塩素系の消毒薬(ハイターなど)でしっかり消毒してください。



結核

結核は過去の病気とされているでしょう。

特に70歳以上の方たちですと、特に戦中、戦後の若いころに友人や家族が結核にかかったなどということがあったかもしれません。それほど昔はありふれた病気でしたが、戦後抗結核剤ができたこと、生活環境や栄養状態もよくなり、また予防接種であるBCGをするようになって激減しました。私たち医療者の中にも「今頃結核なんて」と思っている人がかなりいます。しかし日本は実は先進国の中では結核の中蔓延国なのです。結核は感染しても発症するのは1割くらいです。昔感染した方たちが発症せずについて、年をとったり、糖尿病、ガンなどの病気、また透析などを行うことで結核が復活してくることがあります。お年寄り、また若い方たちでも、生活が不規則で栄養が偏っていたり、過労気味の方で2週間以上咳が続くときには、ぜひ医療機関を受診して、喀痰検査をしてもらって下さい。

